



お元気ですか！  
志村 たかよし です

第809号 2016年10月9日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1  
電話 3546-5563  
FAX 3546-9570

# 「2017年度予算要望書」提出 区民の願いを込めた505項目



区長と区の幹部に要望書の内容を説明する党区議団（左側）=9/26

9月26日、日本共産党中央区議団と中央地区委員会は「2017年度予算要望書」を区長に提出し、意見交換をしました。  
区側は、区長、副区長、企画部長、総務部長、教育長が出席しました。  
毎年この時期に「予算要望書」を提出していますが、今年は、505項目の要望となりました。

党区議団は「要望書」を説明し、中央区が国や都にたいして、区民の立場に立った施策の拡充を積極的に働きかけること。区民に一番身近な自治体として、持続可能な長期的展望にたつたまちづくりや震災対策、地域経済の活性化、福祉の充実など独自の努力をはかることなどを区長に求めました。  
また、新しく誕生した小池都政のもとで、豊洲新市場用地の安全性、施設の欠陥、膨れ上がった整備費の疑惑、情報公開の不足などとともに、都への信頼が大きく損なわれるという由々しき事態になっているときに、中央区の元々の立場である「築地市場現在地再整備」に立ち戻ることを求めました。  
区長は「要望のどのれもが、区が取り組んでいること」など発言したので、私は「区議団が精査した結果、区がやっていないことや不十分なことが5050項目もあるのです」と要望書の重みを説明しました。  
これにたいして、区長は返す言葉がありませんでした。

## 「予算要望書」9つの柱

- 一、平和と自治権拡充をつらぬき、清潔でむだのない、区民本位の区政を実現するために（57項目）
- 二、区民の生命、財産を守る防災・防犯対策の強化のために（68項目）
- 三、日本経済の主役である中小企業・商店の振興と地域経済の活性化のために（59項目）
- 四、区民のくらしと福祉、健康を守るために（90項目）
- 五、保健医療・衛生活動の充実をはかるために（43項目）
- 六、環境を守るまちづくりをすすめるために（23項目）
- 七、超高層ビル中心の「都市再生」から、「住民本位」のまちづくりに転換するために（34項目）
- 八、交通政策を自動車中心から歩行者中心に転換し、命と環境を守るまちづくりをはかるために（47項目）
- 九、子どもたちの豊かな成長を保障する教育をすすめる、区民のための文化・スポーツの発展のために（84項目）

# 築地市場「移転」と環2「地上化」における区の実態は重大

(前回の続きです)

私は、これまで、財界戦略と中央区のまちづくりの関係について取り上げてきましたが、築地市場「移転」には、3つの動機があると考えています。

## 市場を流通センターに

その一つは、大手スーパーや商社のための流通センターにすることやTTPに対応できる流通機構に転換することです。

## 財界・ゼネコン大儲け計画

二つめの動機は、広大な市場跡地の売却と大規模開発による財界・ゼネコンの利益確保です。

私は、05年の本会議で、日本プロジェクト産業協議会「JAPIC」が、81年に、「築地は汐留とともに都心の一等地として今後めつたに発生しない大規模再開発用地なので、晴海、銀座などの開発とリンクさせて情報発信基地か都市型高層住宅として活用すべき」と提案していることや築地市場「移転」、環状2号線、JAPICの関係性を指摘しました。

## 実態は都と区が共同歩調

三つめの動機は、環状2号線を通すことです。

鈴木都政の時代に、マツカースー道路として塩漬けになってきた環2を延伸させて、臨海部と結ぶ計画が臨海副都心計画とあわせて公表されました。

築地市場は現在地で再整備することになっていたので、環2は、地下を通す計画でしたが、01年、石原都知事が豊洲移転を強引に決めたため、環2計画は「地上化」へと動き出しました。その後の経緯を見てみます。

東京都が、環2地上化への計画変更を04年2月に発表すると、5月の「断固反対する会」で、「万が一、市場移転が強行された場合のため」と言って築地市場移転を前提としたビジョンの作成を決めました。10月には、都による環2「地上化」の住民説明会が開かれました。

翌11月の委員会、私が住民説明会についての見解を求めたところ、当時の企画部長だった吉田副区長は、「地上化案は反対が多い。しかし、市場の移転と全く同様で、環状2号線も地上化で強行された場合に、どう備えていくか考えなければならぬ」と方針転換を合理化する答弁をしました。

そして、06年2月の「断固反対する会」で「移転反対」の旗を降ろし、6月には、環2地上化への都市計画変更案について都から説明を受ける全員協議会が開かれ、翌年の中央区都市計画審議会を経て「地上化」実施へと進みました。

まさに、中央区は東京都が強引だから、「万が一」に備えるとして、築地市場「移転」と環2「地上化」への道筋をつけてきたと言えます。

また、中央区は東京都が強引だから、「万が一」に備えるとして、築地市場「移転」と環2「地上化」への道筋をつけてきたと言えます。

## 反対から容認への転換は汚点

Q. 築地も環2も反対から容認・推進へと転換したことは、中央区の歴史にとっても消すことができない汚点を残したと思えますが、どのように総括しますか。

\* 区長答弁\*

「当初現在地再整備を求めていた本区は、平成23年3月、都議会で移転関連経費を含む予算が可決され、移転が明確化されたことを受け止め、食文化の拠点

としての活気とにぎわいを確実に継承、発展させていくため全力で取り組んで行くことといたしました。その取り組みの一環として『築地魚河岸』の整備を進めてきたところであります」

## 中央区の実態は重大

Q. 中央区が築地市場と環2の問題で、反対の立場を貫き通していれば状況は大きく変わっていたはずですが。築地・環2・オリンピックで東京都と歩調を合わせてきた中央区の実態は重大だと考えますが、いかがですか。

\* 区長答弁\*

「築地市場の移転の議論とは別に、地域内交通の円滑化など交通環境の改善に資する基幹道路として環状2号線の地上化の検討がなされてきたものと認識しております。当面は、来年一月以降に予定されている都知事の判断を注視してまいりたいと考えております」

と答弁し、「中央区が都と共同歩調をとって進めてきたのは」と言う指摘については触れず、否定もしませんでした。